宮城県森林インストラクター協会

mifinews

miyagi prefecture forest instructors association

少年団大会大成功！！！

令和3年12月発行 80

巻頭言

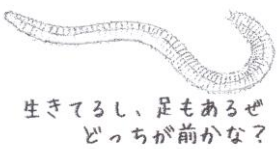
会長　14 期　髙橋　孝紀

今年の活動はコロナウィルスに影響された時期もありましたが、会員の皆様のご支援で過密な終盤のスケジュールも乗り切れそうです。有難うございました。

振り返れば、この一年も天候不順の一年でした。地球温暖化による気候変動が影響しているということは、多くの識者が語るところであります。国連の気候変動に関する政府間パネル（ＩＰＣＣ）は産業革命以前の温度と比較して、何としても 1.5 度までに抑えなければならないと訴えております。この数値は、2.0 度を超えると、人類がどんなに頑張っても元には戻れぬ温暖化の限界点であるからといわれております。人は重要で緊急性の高いことには異を唱えず優先して行動します。しかし、緊急性がさほど高くなければ重要であっても後回しにする傾向がある様です。それでも、人類の過去にはこの課題を克服した事例もあります。

人類は直立二足歩行をするようになり、道具や火を使うようになりました。一方で、直立二足歩行は母親の産道が狭くなり、子どもを小さく未熟なままで産まざるを得なくなりました。この事で哺乳類の中でも子どもの自立に時間がかかる様になり、母親の産後の肥立ちが悪ければ、子育ても出来ず、次の子も産めなくなるという人類の弱点を抱える様になりました。しかし、この弱点を克服したのは「おばあちゃん」の存在です。「おばあちゃん」は、緊急性は高くはないが極めて重要な課題である母親の産後の世話と子育てを担い、人類の弱点を支えました。「おばあちゃん」の存在無くして人類の発展はあり得なかったという説もあります。私たちが携わる森林の維持活動も重要だが緊急性がないと後回しになってきた感があります。私たちも「おばあちゃん」が積み重ねてきた人類への地道な貢献に敬意を表するとともに、森の活動にその願いを継承して次世代を育てていきたいものです。

P.1　巻頭言
P.2　きかくがいろん
P.3　事業部報告
P.4　活動報告　少年団大会
P.5　活動報告　学校の活動
P.6－7　海岸防災林現地ルポ
P.8　私の一押し（施設だより）
P.9　リレー式／安全
P.10　生物多様性を考える３
P.11　新理事紹介
P.12　活動写真館　みどりの少年団大会



Gekiron! きかくがいろん Bouron!

～　SDGs 考　と　釣り活動の意義　～

１期　木村　健太郎

～　“いまさら”　のＳＤＧｓ考　～

毎日きちんとと勉強している子どもが「勉強しなさい！」と言われたら、怒り出すか、訳がわからなくなりますよね。

先日、環境コンサルの下請けのような会社から電話がかかってきて､｢御社は何かＳＤＧｓに取り組まれているでしょうか」とまことに失礼な物言い。

ちょっと憮然として「ウチは社会貢献を目的としているので、やっていることが全てＳＤＧｓのためみたいなものです」と言い返すと､｢その成果を数値化できているでしょうか」と意味の分からない切り返しが来ました。要するに、ＳＤＧｓの取り組みの成果を評価してあげるのでカネを出せということのようですが、ここのところ、やたらとＳＤＧｓビジネスがうるさくなってきました。

２０１５年にＭＤＧｓからスケールアップする形で切り替わって、３年くらいはほとんど動きが無かったのですが、ここ数年で一気に慌しくなりました。何か特別な理由があるのでしょうか。“２０３０年までに”解決しなければならない課題がいっぱいですが、相変わらずパフォーマンスに終始している企業が多いです。

「ＳＤＧｓウォッシュ」という言葉が作られているように、企業のＳＤＧｓＰＲには批判も多いですが、ＳＤＧｓの各達成目標は日本人から見れば常識的なことばかりで、今更という感じがします。

日本人や日本の各企業にはむしろ､｢あたりまえ」の１７の目標よりも､｢少子高齢化の解消」や「フードロスの削減｣､「花粉症対策」などにもっと尽力してほしいです。ＳＤＧｓの達成目標を強調するあまり、国家や地域のために本来やるべきことが見えなくなってしまっているという弊害はあると思います。

昔からさんざん教えられてきたことがあります｡｢人のために何かする時は、人知れずにやること。それを自慢したり対価を求めたりするのなら始めからやらないほうがいい｡」

私の信念のひとつなので、当協会もＰＲが下手なまま大きくなってしまいました。それだけ、やってきたことが地味でも多くの方々に支持され、ニーズにこたえてきたということでしょう。

「世界的な課題の解決」とかにチャレンジしても、問題が大きすぎて何もできないと思うので、私は、これまでどおり「自然体験機会の創出」を土台として活動していきたいと思っています。コロナ禍で、その重要性がますます増してきています。

～　釣りインストラクター協会　～

最近、やたらと釣りを指導する機会が増えて、この秋は「釣りインストラクター協会」みたいになっていました。釣りがからむイベントは２０回を超え、今まで生きてきた中で最も多く釣りの仕掛けを作った年になりました。

しかし、「海岸防災林保育＋ビーチコーミング＋釣り」のプログラムは予想以上に好評で、震災後１０年目にして、ようやく海岸エリアに子どもたちの笑顔があふれるようになりました。

釣り体験では、子どもたちから数々の名言（迷言）が生まれたので、一部を紹介します。

○「魚が、ヌルヌルしてる！」　あたり前です。
○「針が、ささる！」　これもあたり前です。
○「カニが速い！」　あなたが遅いのです。
○｢チョー大物だ！　あがらない」 根がかりです。
○「ミミズに足が生えてる！」　アオイソメです。
○「エサが動いた！」　生き物です。

たくさんの子どもに釣りをさせてみて、やはりとても良かったと思います。単純な行為の中に、貴重な体験要素がたくさん詰まっています。不安定な場所で活動すること、生き物と駆け引きをすること、いろいろなものを触ること等、成長につながる要素がいっぱいです。小さなフグが釣れただけで大喜びしてくれるので、ある意味相当楽な活動指導になります。

私は特に､｢一度にたくさんのことに気を回さなければならない」という要素が良いのだと考えています。大人になってから何をやってもバランスが良く、要領が良くなる訓練ができます。

一番嬉しかった感想は、「お魚って生臭くないんだ」です｡｢そう、生きている魚は嫌なにおいなんかしないんだよ」と教えることができて､｢夜中まで仕掛けを作った甲斐があった～」と疲れが吹っ飛びました。

１１月にはサイクリング＋釣りのイベントも成功し、企画の幅をどんどん広げようと思っています。

今年は「海岸防災林保育元年！」をメインテーマに企画を立ててきましたが、来年度も引き続き海岸防災林保育を柱に活動を組み立てていくつもりです｡特に、コロナ禍でできなかったバスツアーや、施設を絡めたイベントを考えています。

しかし、活動の幅が増えれば、さらに幅の広いスキルが必要になります。研修会や研究会も多く実施していきますので、やったことがないことにもどんどん挑戦してみてください。

県民の森のおすすめスポット「市町村の森」

環境・森林事業部　３期　原　恒夫

「市町村の森」は県民の森北側、青麻神社向かい側に位置しています。青麻神社井戸の隣りに「市町村の森」建設のご案内の古い看板があります。今から３６年前の昭和６０年１０月、国際森林年記念事業の一環として県内７４市町村から「市町村の木」と「労力」の提供をいただき、「市町村の森」が誕生しました。「市町村の森」は早春にはカタクリ・ショウジョウバカマ・エンレイソウ・トウゴクサイシンなどが咲き乱れ、春の妖精（スプリング・エフェメラル）たちの隠れた穴場となっています。

平成の大合併で市町村名は変わりましたが、当時の市町村の木をわかる範囲で確認してみました。枯れてなくなっている木もありますが、立派に大木になっている木もあります。

クロマツ・・・唐桑町・歌津町・石巻市・鳴瀬町・山元町・七ヶ浜町・桃生町・岩沼市・名取市・大郷町　南方町・富谷町・河南町・矢本町・亘理町・一迫町・松山町　アカマツ・・・東和町・本吉町・大衡村・宮崎町・村田町　カシ・・・角田町・米山町・河北町・利府町　サクラ・・・大河原町・若柳町・色麻町・瀬峰町・塩竈市　ブナ・・・白石市・小野田町・花山村　ウメ・・・登米町・中田町・志波姫町・鶯沢町・田尻町　ケヤキ・・・仙台市・金成町　スギ・・・丸森町・涌谷町・津山町・女川町・鹿島台町　モミ・・・岩出山町・柴田町　イチョウ・・・古川市・豊里町・築館町・迫町　エノキ・・・三本木町　クリ・・・栗駒町　タブ・・・志津川町　ゴヨウマツ・・・蔵王町　ヒマラヤスギ・・・小牛田町　ヒメコマツ・・・北上町　サザンカ・・・多賀城市　ドウダンツツジ・・・川崎町　モミジ・・・大和町　ミズキ・・・鳴子町　コブシ・・・七ヶ宿町　カツラ・・・高清水町

無くなっている木としてはクロマツ・アカマツ・イチョウ・エノキ・タブ・モミジ・カツラなどですが、特にクロマツはダントツの１７の市町村で選定され植樹されたようですが、現在数本しか残っていませんでした。

このたびの東日本大震災では海岸林再生のメインの樹種として耐寒性・耐塩性に優れた抵抗性クロマツが推奨されているのになぜ残っていないのか？マツノザイセンチュウによるマツ枯れがまず考えられますが、その前にそれぞれの樹木の適地適作があるものと考えます。それから日頃からの継続的な手入れも必要で、子や孫へと引き継ぎ、より美しい自然を残してやりたいものです。

久しぶりに植樹をしました

海岸林再生事業部　14 期　水原　洋一

９月 23 日、気仙沼市岩井崎地区で久しぶりに海岸林の植樹が行われました。海岸防災林について宮城県との協定を新たに結んだ宮城ダイハツ販売(株)さんが、気仙沼市で行った植樹活動をお手伝いしました。

久しぶりの植樹だったので準備を早めに始め、夏休み前の７月中旬に現地の確認と 12 区画の植樹場所の測量を行い、これを元に植樹位置の図面を作って概略本数を算出し苗木の発注をして頂きました。夏休みも終わった９月中旬には準備作業として植樹地の草刈りと位置出し（目印のハシ立て）を行い植樹班の準備が出来ました。その間、事務局は植樹以外の活動の検討や場所などの確認で何度か現地に行かれたようです。

天気にも恵まれて当日の活動のスタートです。現地まで約 140km1 時間 40 分ほどかかるので協会メンバー22 名は７時に集合し分乗して出発。現地到着後は開会式などの準備を行っていましたが、苗木約 720 本が時間になっても到着せず、冷たい汗が背中を流れました。祝日のため苗木屋さんへの連絡が大変だったとのことですが、何とかお昼過ぎには到着見込みとなり、行事の順番を入れ替えることでやっとスタート出来ました。開会式では社内公募で決まった「夢たぁ～んとダイハツの森」に込めた思いを社長さんから紹介頂き、県内各地の事業所から参加された社員とご家族 101 名と８班に分かれてまずは海辺の散策を行い、昼食後に植樹を行いました。苗木の扱い方など注意事項を説明後に一斉に作業を開始し、一部ぬかるんだ所も有り遅れた班には班同士で助け合いを行い無事終了しました。帰りには道の駅での買い物も楽しみましたが、”気仙沼はチョット遠いなあー！”が印象です。参加された皆様、お疲れ様でした。

なお、宮城ダイハツ販売さんは岩沼市寺島地区でも県と協定を結び、10 月始めに除草活動を行っています。これらの活動は河北新報に掲載されました。

８班の皆さんも頑張って植えました

【9/26（日）宮城県みどりの少年団大会】

第 46 回宮城県みどりの少年団大会が東松島市大曲海岸で開催されました。コロナ禍の中、昨年も日程をずらして秋の開催となり、今年も緊急事態宣言があって開催が危ぶまれましたが、感染防止対策のもとで実施することができました。少年団 10 団体約 140 名、運営スタッフとして協会員 54 名が参加しました。植樹されたクロマツや広葉樹の保育活動に汗を流し、防災林について考えました。協会員にはクイズの説明するようにという指令が出されましたが皆さん大丈夫？（Q1：なぜ海岸防災林にはクロマツが植えられるのか？ Q2：風や津波で倒れない強いクロマツを育てるために工夫していることは？ Q3：クロマツが何歳か数えるには？ Q4：クロマツがきちんと育つためにこれから何をする？）保育活動のあとは自然観察やレクリエーションを楽しみ、コロナ禍で行動を制限され苦しい思いをしている子どもたちにとって開放された楽しい１日となりました。

県みどりの少年団は現在５８団体に約３５００人が所属していますが、少子化や学校統廃合等により加盟学校数は減少しつつあります。その様な中で、東松島市では新たに大曲小学校が今年から加入し、今後も加盟校を増やしていく計画だそうです。みどりの活動に理解が深まるのはうれしいことです。（2 期　進藤恵美）

元気いっぱいに活動しました

野上（のじょう）みどりの少年団、今回私が引率担当したのは宮城県川崎町にある小学校で、６年生を中心に団員１１名、育成会６名の計１７名。山の学校だけあって、自然観察での海岸防災林クイズも全員がほぼ満点近い解答。保育活動での手鎌を使っての草刈り作業も手慣れたもの。おかげでレクリエーション会場へは一番乗り。まずは、クラフト会場を一回りして、コーナー紹介をして頂き、後はそれぞれが興味のあるコーナーに一目散！目を輝かせながらメンコや独楽回しなどの昔遊びに興じる子どもたちも多くいて、活動の終わり頃には、竹とんぼや剣、フラワーアレンジメントなどの土産を全員が両手一杯に抱えて満面の笑顔。また午後からはビーチコーミング活動。浜辺に打ち上げられた漂着物を集めます。砂浜を歩いてみると、美しい貝殻や変わった形の貝、そしてシーグラスと呼ばれる砂や波でもまれて角が取れたガラス片などが数多く浜辺に打ち上げられていて、これらはすべて「波が運んでくれたプレゼント」。そんなプレゼントを皆で夢中になって集めます。ワタリガニの殻を得意になって拾っている子を見て、こんな物を持ち帰ってどうするのかな？と思ってしまうけど、山の子どもたちにとってこれらすべてが宝物。そして最後はおきまりの、打ち寄せる波との追いかけっこ。

コロナ禍で修学旅行はもちろん、近くへの遠足も含め全く課外活動が出来なかった小学６年生の彼らにとって、この「みどりの少年団活動」が唯一の課外活動とのこと。彼らの小学校最後の思いで作りに関われたかな？

20 期　高橋秀

クラフトコーナー リースづくり

クズの蔓で輪を作り、くるくるくると巻き込んでいくとリースのリングのできあがり。ところが、太いクズを選ぶと大人でも巻き込みにかなりの力が必要です。飾りの素材は緑色のヒバ、赤いリンゴ（造花）、ローズシーダーなど様々な形の松ぼっくり。それから会場辺りでたくさん摘んだ黄色いトキワアワダチソウやアカメススキの渋い赤もなかなかのもの、人気のアクセントとなりました。これでもかとめいっぱいデコレイトする子もいれば、素材をじっくり選んでシンプルにピット決めてくる子もいて、面白いリースがたくさんできあがりました。子ども達に混じり、大人も参加。バランスを考え時間をかけ悩みながら創作する大人達でしたが、子ども達の瞬発力のある感性が勝ったかな！！

９期　小島恵子

【元気な子どもたちと共に　～小学校との活動～】

２期　進藤　恵美

秋は大勢の小学生が森づくり活動にやって来ます。時代を担う子どもたちに森の大切さを伝えるとともに、元気な子たちと自然の中で共に語り、動き回ることが何よりもこちら側の活力の素になります。今時の考えに感心したり、違った学年の子どもを見て人間の成長ぶりに驚いたり、自然体験を面白いと思ってもらいたいとネタに苦心する会員の努力を感じたり、様々な発見がありました。面白そうだなと興味を引きつけるにはどうしたら良いのか、指示せず子どもたちの自主性に任せてスムーズに活動するにはどのような配慮が必要なのか考えさせられます。たくさんの活動の中から３校の様子をお知らせします。

９月２２日（水）

仙台市立南材木町小学校の５年生 53 名が、（公社）宮城県緑化推進委員会の「次世代を担う子どもたちの海岸防災林保育活動」に参加し、荒浜潮除須賀松の森で保育活動を行いました。この学年は１年時から学校での活動を行ってきたのでお馴染みの協会員もいて最初から打ちとけた雰囲気です。学校では広瀬川流域の自然について勉強中、今日は海に流れ込む川の最終段階の実地見学でもあります。

午前中は平成 30 年の植樹地で草抜きやツル除去をし、自然観察会では生き物を探したり外来種や毒を持つ植物を観察したりしました。午後からは、貞山運河について学習した後、ハゼ釣りを楽しみ、また深沼海岸でビーチコーミングをして大きな環境問題となっている海洋プラスチックゴミについても考えました。

10月５日（木）

仙台市立泉松陵小学校の５年生 68 名が（公財）ニッセイ緑の財団の「ふれあい森林教室」で「ESD 学びの森」にやって来ました。学校が所有するけやき山で協会員と共に様々な活動をしてきている子どもたちです。

今回は本格的な森の中で、自分たちのけやき山をどんな森にしたいのかを考え、道具を使って森づくりの作業を体験します。引率担当の会員はグランディ 21 の駐車場で出迎え、森に連れて行く道中に活動計画を子どもたちと考え、自然遊びや観察、環境保全の話をしながら活動場所に案内します。

９つの森づくり活動が用意されましたが、限られた時間内にできるのは３つ程度です。子どもたちの希望を叶えつつ誘導するのはなかなか難しいものです。けやき山活動の成果でのこぎり作業は慣れた様子、木は切ったことがあるからと竹切りが人気。虫は気持ち悪いとカブトムシ幼虫の持ち帰りは不人気でしたが、飼育をしてみようかなとおそるおそるチャレンジする頼もしさも出てきました。

午後は青少年の森で、密にならない配慮の元にネイチャークラフトや野外遊びに興じました。

１１月１６日（火）

仙台市立六郷小学校の３年生１２９名が大型バス３台を連ねてやって来ました。学校や海岸林で一緒に活動してきているとはいうものの、大所帯を迎える側もドキドキです。

午前は県民の森四季の森内の「ゴルファー桜の森」で森づくりをしたり、木のぼりや崖のぼりにチャレンジ。１６班編成で、引率担当はいかに子どもたちのやってみたい希望を叶えるか、また広いフィールドで怪我をしないよう安全配慮に四苦八苦。午後は青少年の森に移動して減災体験とネイチャークラフトを楽しみました。

１２９人もの児童が同じ会場に混雑せずにどうやって活動していくかが課題でしたが、頼もしいスタッフ揃いで無事クリア。活動をサポートしていただいた（社）ゴルフ緑化推進会の“みかね～さん”こと遠藤専務理事は、「大成功、久方ぶりの来仙が嬉しく涙が出ちゃった」とのお話。

事前配布の計画書に「お椀とお箸」の記載があって、いよいよ協会名物“芋煮”復活だと皆が期待を膨らませたのに、残念！！！ミスプリントでしたぁ。

子どもたちと思いっきり活動できたと、遠藤専務理事

現地ルポ　第3弾　仙台エリア編

前号（79号）石巻編に続いて「ワクワクみやぎの海岸林防災林」ガイドマップの仙台エリアを原田広報部長がご案内。充実したレクリエーション施設があり、手軽な釣り場も多く、様々なアクティビティが楽しめます！

1、松島町手樽海浜公園から、いざ出発！

４８３mの長い海岸線を持つ公園。風のマルシェは「松島手樽を元気にする協議会」の直営カフェ。海岸にはプールのような石積工が並びエビ、カニ、小魚など様々な生き物が見られます。スケートボードの練習にはもってこい！？

2、塩釜港までやってきました

次は巨大な倉庫群の中を走って七ヶ浜へ。

3、七ヶ浜　代ヶ崎浜

地元の皆さんと共に植えた木々は順調に生育中。防潮堤のおはじきアートで

波乗りポーズ！

4、七ヶ浜　谷地漁港

あっ！という間にメバル ５匹！！

5、七ヶ浜うみの駅「しちのや」到着！

新鮮な海の幸に会えるよ！

6、七ヶ浜　表浜公園

表浜（外人浜）は外国人が訪れた日本三大避暑地の一つなのだそう。砂浜ではバドミントンやビーチバレー、子どもが大喜びしそうな洞窟も！

7、七ヶ浜　長塚公園

遊具と**ひろーい**原っぱ。

野球対決、いざ**勝負！**

8、七ヶ浜　菖蒲田植樹地

きれいに手入れされていました。サクラも順調に育っています（平成 28、29 年植樹）　。

9、七ヶ浜　昼食は港飯店

メニューが多いこと、盛りが良いことにビックリ！満腹！！

10、うしちゃん多賀城緑地公園

今年は２度、親子イベントの会場になりました。ヒマラヤシーダーも拾えるよ。

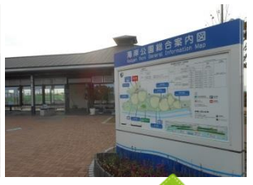
貞山運河で釣り、**フグだあ！**

11、スリーエム　仙台港パーク

小さい子どもたちが釣りを楽しんでいました。近くに大きなフェリーが。

12、海岸公園

岡田地区には野球場が６つ、テニスコートが 10 面。海岸林岡田植樹地は育ちが心配。ずいぶん外れた所にアート？の木道。



13、センターハウス

荒浜の海岸林活動拠点でお馴染み。レンタサイクルで僕と一緒にどお？貞山堀でウキ釣り。ハゼとウグイを**ゲット！**

14、フルーツパーク到着

年間通して旬の果物の摘み取りができ、直売所もある。

15、井土の冒険広場で童心に返って

大きく育て、海岸林・・・

ふわふわドーム

次号は県南へ

＝　施設に勤務する会員の方々から見所やイベントをご紹介いただくシリーズです。＝

【四季折々の四季の森】

１７期　千葉　恵右

中央記念館から３号幹線を北に２ｋｍほど行くと、四季の森駐車場があります。

四季の森で一番先に花が見られるのは「うずきの道」にある梅苑。３月になれば紅梅、白梅が両斜面を埋め尽くします。時には梅の花の上に遅い雪が積もり、白い雪を載せた紅梅が見られることもあります。「うずきの道」を一旦下ると湿性植物園があります。ここにはミズバショウが見られます。更に散策路を登ると、中腹にはマンサクやカタクリが咲き始めます。３月下旬になると今度は「みつまたの道」の両側に黄金色のミツマタの花が咲き始めます。「みつまたの道」は、「まんさくの道」に続き、万作堤を回り込み「ははその道」につながります。この途中には「珍樹の森」があり、「ナンジャモンジャ」「西洋カマツカ」「ハンカチノキ」など他では見られない樹木があります。「ザイフリボク」には白い花が見事に咲き、一見に値します。

４月末の観桜期になると岩切城址の桜を目当てにマイカーで混雑しますが、桜はここだけではありません。「はやぶさの道」を行くと小高い丘のはぎ苑があります。西斜面は、ミニ桜見本園として、多くの種類の桜が植えてあります。「シロタエ」「陽光」「オカメザクラ」「ウワミズザクラ」など時期をずらしいろいろな美しい桜の花見ができ、「ながつきの道」周辺には淡い色をしたヤマザクラが沢山みられます。

遠くに残雪が残る蔵王連峰や船形連峰が見渡せ、春の暖かい日差しの中でのんびりと過ごすのはいかがでしょうか。

また、初夏にはホウノキ、ミズキ、フジなどが咲き、秋の紅葉も見ごたえがあります。

四季の森には沢山の散策路があり、四季それぞれに多くの花が咲き、楽しい散策が楽しめます。

芝生広場から山桜と仙台の都心部

【蔵王のガイドを通して】

１７期　四釜　咲男

蔵王という地域は、ジオパークの認定を目指しているだけあり、地域全体が地形的・歴史的に重要であることを感じています。

ことりはうす（宮城県蔵王野鳥の森観察センター）のトレッキングガイドでは、植物の植生をメインに説明をしながら、蔵王の歴史を織り交ぜ、五感をフルに使い、参加者が飽きることなく楽しんでいただくことを目指しています。イベント参加者が何に興味を持っているかを聞き出しながら、年齢層に合った話をするように心がけています。特に子どもたちには興味を持たせるために、手で触れたり匂いをかいだりして感じることを体験させています。大人は「食べることができるか」に興味を示してくれます。そのためにもネタ話は幅広く持つように心掛けていますが、参加者に教わることも多々あります。

そして大事なことは、楽しいことだけではなく自然は危険と隣り合わせであることも伝えます。自然災害や動物の被害、危険な植物などを理解したうえで、蔵王の自然を楽しんで欲しいと願っています。

ガイドをするにあたってのネタ話は、

- 蔵王に自生している貴重な植物や動物の話
- 40 万年前に始まった青麻山の噴火から、長い年月をかけて蔵王連峰が形成された話
- 800 年前から始まった山岳信仰の話
- 400 年前の江戸時代（伊達政宗時代）から盛んだった「お山参り」の話
- 遠刈田地域の生活や食文化の話
- 他には、農業・林業や趣味の登山、釣り、山菜やキノコなど

これから冬に向かい、冬芽の観察やアニマルトラッキングが楽しみです。

今後とも、ことりはうすのイベントを通して、参加者に蔵王の素晴らしさを伝えることを心掛けて、活動していきたいと思っていますので、応援をよろしくお願いします。

蔵王の大自然を満喫できるガイドツアー

安全のページ

健康こそが安全の第一歩（病は気から）

16期　森　裕子

「皆さん、呼吸は、どこでしていますか？」。マスクを長いこと付けていると、息苦しくて口で呼吸をしている方も多いのではないでしょうか。呼吸は自律神経を調節し、ストレス対策として自分で整えることができます。「片鼻呼吸」により、右の鼻穴で呼吸をすれば「戦いの神経」といわれる交感神経が優位となり、頭がすっきりとした感覚をうけます。また、左の鼻穴で呼吸をすれば「リラックスの神経」といわれる副交感神経が優位となり、目の前がぼんやりとした感覚になります。朝の目覚めが悪い時、夜に眠れない時にやってみてはいかがでしょうか。

また、私はオンラインレッスンの太極拳にて学んだのですが、五情、五臓という言葉をご存じでしょうか。悲しみすぎるは肺が弱る。これは、悲しいと浅い呼吸になり免疫力が落ちて肺が病気になりやすいということです。思い悩むは、胃が弱る。胃は気のめぐりであり、食べ物により、元気、やる気を作り出しているといいます。喜び、高ぶるは心臓が弱るといいます。怒りすぎるは、肝（臓）が弱る。肝臓は血のめぐりであり、ことわざでも頭に血がのぼるというものがあります。おそれすぎるは、腎（臓）が弱る。腎臓は、水のめぐりであり、腰のあたりにある臓器です。ことわざで、腰がぬけるとか、腰がひけるという言葉があります。

「病は気から」という言葉がありますが、この学びによって、気持ち（感情）によって体は反応しているのだと思いました。皆さんも、毎日の過ごし方で、自分自身を労ってみてはどうでしょうか。

大梅寺　座禅堂にて　　左：堂内　　右：座禅足組み

リレー式　会員の広場

私の病気

20期　伊藤　弘子

８月末に原稿の依頼がありました。この時点では、刈払作業をして下さる方々への感謝を書くつもりでした。しかし、季節がずれるので季節に合ったものをとの由でした。作文は大の苦手です。文の作成がうまくできず、自分が伝えたい事が伝えられません。今現在感じている事をお伝えできれば良いな、と思いペンを取りました。

私の年齢になると、ボランティアに参加する時間がある程度出てきます。この森林インストラクターのボランティアの内容も色々あります。自分はどんなボランティアがしたいのか、自身に問いかけてみました。自然が好きだから、自然の空間に関わりたい、仲間を作りたい、遊びたい、草花や森林を勉強したい、今までの環境でない所で色々な人達とお話がしたい、そして知識を深めたい…等と沢山の事を希望し、行動しています。

家族は、私の事を「タィタィ病だ」と言います。タィタィ病とはどんな病気か、そんな病気が有るのか、何かに活用できないのか、調べてみました。ＰＣではタィタィという国に取り憑かれたように、はまる人達のこと、また、タィタィ病が悪化して毎日タィに行きたい、住みたいと、タィ国の事が書いてありました。辞書では、イタイイタイ病、こころの病、精神病とも書いていました。私のタィタィ病を勝手に分析すると希望が多すぎてあれもしたい、これもしたい、それもしたい…と、これは極めたぞという物を求め続けているのかもしれません。

今回、森林インストラクターのボランティアを通して学んだ事があります。若い人も高齢者も一緒になり自分なりのカラー・味・人間性を出し、まとまって関わり、活動している姿は素晴らしく、素敵なんだなぁ。私もそんなボランティアを目指していきたいです。まだまだ未熟ですが、みなさんと同じ志を持ち、常に前へと進んでいきたいと思っています。沢山の仲間に感謝し、頑張りますのでよろしくお願いいたします。

山が大好きで、山の空間に居るだけで幸せを感じています。山の写真を送ります。

祝瓶山山頂より　朝日連峰を眺め山々の名前を呼んでみる

次回は20期　樋渡悦子さんにバトンを渡します。

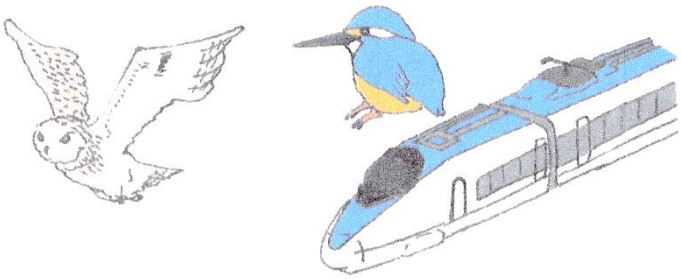
シリーズ　＜生物多様性を考える＞　３

生態系サービスの利用

前号まで、多様性には様々な考えがある中、協会としての共通認識を摸索してきました。今回は子どもたちの興味を引き出すヒントを取り上げました。

子どもたちと共に活動すると、「森は暗くて怖いから入りたくない」、「虫は気持ち悪いから世の中にいらない」、と話す子たちが多いことに驚きます。そんな考えの人が増えつつある中で、いろいろな生き物が生息できる豊かな環境を維持することはできるのでしょうか。不思議だな、なぜだろうという気づきや関心を自然遊びの中で伝えられたらと考え、シリーズ３回目は生物多様性を保全すべき理由のひとつ、**生態系サービスである「バイオミメティクス」（生物模倣技術）**を取上げます。

なんといっても有名なのは、新幹線です。静かに走るために、世界で一番静かに飛ぶことができる**フクロウ**の風切羽をパンタグラフに応用、トンネルドンと言われるトンネル突入の際の騒音の軽減には**カワセミ**のクチバシの形状を先頭車輌に模倣しました。開発者は野鳥の会の会員でもあるとのこと、日頃の観察があってこその気づきですね。



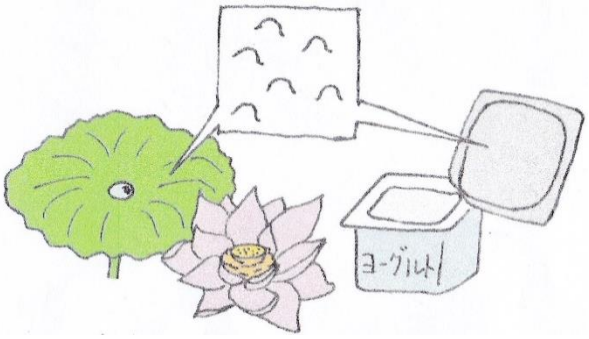
「絵で分かる生物多様性」（講談社）より

身近な家電にも応用されています。

エアコン室外機には鳥の中でもっとも滑空力が高く数万キロも飛び続けることができる効率的な翼を持つ**アホウドリ**と乱気流の中でも安定して飛ぶことができる**イヌワシ**の羽根形状が応用され、静音化と効率化を実現しています。

洗濯機の槽にはらせん状の凹凸があったり、底には緩やかなカーブがついていたりします。これは**イルカ**の皮膚の形状や高速遊泳を可能にするヒレを模倣。サイクロン掃除機用のゴミ圧縮ブレードには吸い込んだゴミを固めて再膨張を防ぐために**ネコ**のざらついた舌の構造が応用されています。

ひらひらと飛んで２０００キロもの旅をする**アサギマダラ**の羽根から、風速ムラのない滑らかな風を送り出す扇風機が生まれました。



ヨーグルトが全くつかない蓋に感激したことはありませんか。これは水をはじく**ハス**の葉からのひらめきです。蓋に 10 ㎛の小さな突起をつけました。

服にくっつく植物の種子をヒントに生まれたのが面ファスナー（マジックテープ）です。

高速で飛びまわりながら空中に浮遊する虫を捕らえることができる**アマツバメ**、つるつるのガラスにもでこぼこの岩でもすいすい登ることができる**ヤモリ**、虹色に光り輝く**玉虫**、子どもたちに「どうしてそうなんだろう？」と思わせたらこっちのものです。

嫌われ者の**蚊**からも痛くない注射針が生まれました。驚異的なジャンプ力を生み出す**ノミ**の蛋白質は補助関節などの医学的な利用が期待されています。

先日の新聞に**クモ**の遺伝子を参考にした人ロクモ糸がすぐれた伸縮性と強度の他にも環境に優しい素材であることが取り上げられていました。化学繊維は石油が原料で生産に膨大なエネルギーを消費します。人ロクモ糸は発酵生産なのでエネルギー消費量は少ないとのこと。脱炭素の流れの中、注目される新しい素材だそうです。

生き物を模倣した技術には、ワクワクするあっと驚くハナシがもっとたくさんあります。ネタのひとつに加えてじっくりと観察してみてはいかがでしょうか。

日本人は古くから、自然を畏れ、敬い、崇めながら自然と寄り添い共存してきました。自然から学ぶという視点を普段の生活や技術開発に活かすことで、より生物の多様性への目が開かれるのではないでしょうか。自然の中で遊ぶ楽しさを知っている人の裾野を広げることが森や環境を守ることにつながり、真の循環型社会を可能にする様な気がします。（会報委員会）

新理事紹介：今年度新しく理事になられたメンバーに、自己紹介をかねて抱負を語ってもらいました。

広報部副部長　９期　　小島　恵子

自然の中で過ごすことが好きです。若い頃から山を歩いていますが、自然の中では素の自分になれます。今年はソロキャンプデビューしました。それから、この頃特に（年齢のせいかな）、生きている物すべてが愛おしく、懸命に命をつないでいる姿に心打たれます。この夏、庭先で羽化する場所を探し歩く蝉の幼虫を見つけました。それからの３時間、羽化するまでじっと離れず見守りましたが、この生命の神秘の瞬間に巡り会えたことに感謝です。

１年弱でしたが、屋久島で生活していたことがあります。世界自然遺産登録以前でしたので、まだ素朴で静かな島でした。そこで出会えた、島の自然に魅せられた研究者や詩人、身近な自然を守ろうと活動する島の青年達や地域の人達、パークレンジャーなど彼らの活動を通して足下を知ること、伝えて行くことが大切と感じました。

そんな思いをつなげていけるのかな・・・と、森林インストラクターに興味を持ったのです。最近、協会の活動で初めてお会いする会員の方に自己紹介をすると、９期なので「おー、大先輩ですね」と声をかけられる事があります。「いえいえ、古いのですが新人です」と苦笑いです。こんな状況ですが、自然って素敵なんだよ、楽しいんだよと伝えられるように、引き出しを増やして行きたいと思っています。

研修部副部長　２０期　　亀山　久美

ある日、FM から流れて来た「宮城県森林インストラクター募集のお知らせです！」の声に、私は、「ん？森林!?　ほぅ！森に行けるなら良いな」と、すぐさま申込みました。それ以来、協会の皆さんには大変お世話になっております。

受講生時代、友人から「なんでインストラクターになるの？」と聞かれ、私は「森にずっといたいから！なんなら木と一緒にそこにいたい！」と話したら「森の中にずっといたらクマに食われて死ぬよ！」と笑われました。(なに言ってるのさ、食わないよ！　人を食べるのは北海道のクマだよ…)　間違っていたらすみません。「キミ、“森のチカラ”が分かってないね。森に行ってごらん。いろんな音が聞こえるよ。鳥の鳴き声は季節によって変わるし、葉っぱはサラサラ、風に揺れるし♪それが体に凄く良いんだよ。薬を飲むより効くよ！」と私。まあ、理解されないでしょうね…。自分でも変か！と思います(笑)。

世の中には、いろんなタイプの人がいます。森林インストラクターになりたい理由も様々だと思います。私のようにただ森にいたい人、森をキレイにしたい人、生き物たちが好きな人、タイプは違えど根っこは同じ、森と関わりたい人達の集まりなんだと思います。ですので、インストラクター採用の門戸は広く開けていてくれると良いなと思います。この協会に関わって本当に良かった！と、つくづく実感するこの頃です。

研修部部長　２０期　　鈴木　茂

現在県民の森の管理サポーターとして主に「青少年の森」で月４回ほど勤務しています。

森林インストラクターの動機は、広報誌で「森林インストラクター（森林の案内人）」募集記事を目にし、言葉に惚れ、興味とこんな資格有ったらカッコいいなと思い参加しました。その後、協会に入り活動や研修に参加し先輩諸氏の豊富な知識とバイタリティーには驚くばかりです。私も森林インストラクターとして自信を持ち大声で言えるようになりたいです。

趣味はシーズンオフの蕎麦打ちです。8:2 蕎麦でなかなか納得のいく出来には上達しませんが、同僚とかはコシがあって美味いと言ってくれます。（タダで食えるからお世辞？）

住家は富谷市ですが、実家は栗駒で週末には実家に行き、ルバーブ・アスパラガス・エゴマ栽培に挑戦中です。来年は蕎麦やトウモロコシもやってみたいと思っています。

総務部副部長　２０期　高橋　秀

仙台出身ですが、学生時代そして社会人になってからも転勤族で仙台を離れていて、６年前定年を機に数十年ぶりに仙台に戻って来ました。現役中はマンション生活で、自然と触れ合う機会が殆ど無かったこと、また、若い頃カブ（ボーイ）スカウトのリーダーをしていた際、活動する毎に成長していく子どもたちを見て、自然や子どもたちに関わる活動がしたいと考え、森林インストラクターになりました。現役時代は、たまにゴルフをする程度で趣味らしい趣味はありませんでしたが、バードウォッチングを体験してからその魅力に嵌ってしまい、望遠機能付きのカメラも買い、鳥の絵（鉛筆画）も描き始めました。現在県民の森で管理サポーターもしていますが、県民の森だよりの鳥の写真や絵は私が担当しています。

４年ほどまえから体力維持のため、家内と近くのプールに通い始めました。運動音痴の私でしたが、スイミングは自分に合っているらしく、今後も老いに抗いチャレンジし続けたいと思っています。

宜しくお願いします。

活動写真館

＜９月２６日 第４６回 みどりの少年団大会＞

カマを使って除草

クラフトコーナー、準備万端で子どもたちを待ちます

インストラクターと、いざ勝負！

山の子、海を楽しむ

勢ぞろいで式典

２２期生、がんばりました！

発行　特定非営利活動法人　宮城県森林インストラクター協会

〒981-0121　宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢４１　青少年の森
TEL&FAX：022-255-8223
メール：mifi@bz04.plala.or.jp　HP：http://mifi.main.jp